

中小企業の 4 人手不足への備え方



クニエ
ロジスティクスグループ

大室 翔史

マネージャー

省人・自動化に向けて対外的に動き出す前に、まずは社内での目標を明確化し、経過を把握するため、統一した重要目標達成の指標を統一してスタートさせ

指標に対する 合意形成重要

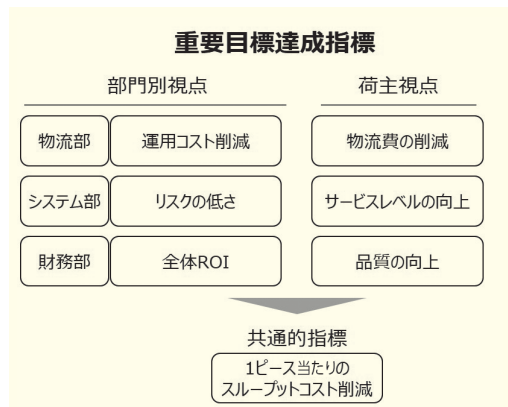
対外的には、荷主にも納得してもらえろメリットを提示する必要がある。扱う荷物、事業状況にもよるが「物流費の削減」「サービスレベルの向上」「品質の向上」のうち、一つは提示が必要。他にも複数の指標がある。

標を掲げることが大切になる。これは社内の部署や役職で重視する指標が異なるため。例えば、営業部門はコスト削減、システム部門はリスクの低さ、財務部門は全体の投資対効果を重視する。

省人・自動化へ社内で考えるべきこと

ることが大事になる。指標の認識が合っていないと、計画の具体的な検討を始めても、依頼するベンダーの選定基準が定まらない。オペレーション設計時に重要な項目意識も合わず、計画が進展しない事態が起る。

実際、筆者は過去にある企業の倉庫の自動化プロジェクトで、何度も物流部、システム部、財務部で意見が合わない光景を見てきた。目指すところが不明確な場合、それぞれの立場で目的を果たそうとすることから、衝突は避けられない。



成長や変貌を
正しく捉える

社内で見えが分かれた場合は、まずは「スループットを成長させる大きな可能性を秘める。実現には先見性、新技術の吸収・応用力にすることが重要になる。」

一方で「機械を入れれば効果が得られる」という受ける。金融サービスなどを手掛けるオリックスは、物流果は自ら生み出す」というロボットのレンタルサービス機械の導入が目的となり、勘違いをして失敗する。

省人・自動化する機械の導入は検討だけでも時間と労力がかかり、余裕を持った予算計画が必要だ。物流向けマテハンなどの価格が

工、インターネット通販の拡大で需要が見込まれる小口配送を想定した省人・自動化が一例だろう。いずれもハードルは高いが、事業の工場向けと比べると、同コストの削減を秘める。実現には先見性、新技術の吸収・応用力にすることが重要になる。

予算の確保と有効な分配を

そんな中、最近では、高額な機械を定額方式でレンタル提供するサービスを展開する企業も出てきている。金融サービスなどを手掛けるオリックスは、物流果は自ら生み出す」というロボットのレンタルサービス機械の導入が目的となり、勘違いをして失敗する。

省人・自動化する機械の導入は検討だけでも時間と労力がかかり、余裕を持った予算計画が必要だ。物流向けマテハンなどの価格が

おおむろ・しょうじゅう2010年米ナショナル大経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルティングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティングを手掛ける。